

2015年訪中団報告

謙虚な謙虚なデッカイひと ～今中光昭さんインタビュー@中国廈門（アモイ）

（株式会社カムアクロス代表取締役＝東大阪西支部）

2015年度の訪中団は福建省廈門（アモイ）を訪問。東大阪市に本社がある傘メーカー・株式会社カムアクロスの現地工場を訪れ、社長の今中光昭さんに話を聞きました。



■ 裸一貫からの起業

今中さんは1966年、裕福な事業家の家庭に生まれます。しかし、お父様の急逝と会社の倒産という事態を少年時代に経験します。そして「当時の高卒初任給より高い給与にひかれて」と入ったのがたまたま傘屋でした。そこでは今中さんの懸命な働きぶりが認められます。売り上げは順調に伸びますが、資金繰り難からその会社はあえなく倒産。

その後1995年に傘の製造を目的に今中さんは起業。それがカムアクロスです。当時はまだ日本のどの傘屋も中国工場を持っていませんでした。「へそ曲がりなので『やってみよう』という安直な発想」で、まず広東省の東莞（トンガン）に、そして2001年からはここ廈門に移転します。

しかしその時、当時最大の販売先が倒産し1億2000万円の引っ掛かりが発生、大きな経営危機に陥りました。可愛がってもらっていた仕入れ先の台湾人・陳社長に相談すると「大丈夫か?」とだけ聞かれて、仕入れ代金8000万円の支払いを猶予してくれました（金利も取らなかった）。おかげで窮地を乗り切ります。紆余曲折の末に工場を軌道に乗せ、いまでは年間100万本の傘を生産しています。

■ 笑顔のさわやかな工員さんたち

工場を見学しました。働く工員さんの目が真剣そのもの。そして礼儀の正しいこと。傘を作る工程は裁断、ミシン、検品など手作業によるものが多いそうです。一心不乱に作業しながらも、私たちにを見せてくれる柔らかな笑顔が印象的でした。

ここまで来るのは決して一朝一夕にはできなかつたはず。今中さんは「何にもでけへんかった小学生のような子たち」に生活の基本からしつけました。「食べ残しするくらいなら、初めから少なく取ること」など、口酸っぱく注意。そして傘づくりの専門技術を教え込み、多くのベテラン社員を育てました。

この廈門工場はいま178名。そのうち直接は傘の製造に携わらない事務や仕入れ、守衛などの間接部門が60名。その全員が「傘」に意識を集中させています。「たとえばうちの守衛に『何の仕事をしてるの?』と聞いてみ。ほんなら『は

い私は傘を作ってます』と答えよる」とのこと。社員の心を一つにまとめた理念経営です。

■ 起業家魂と謙虚さと

人なつこい大阪弁（河内弁）丸出しで飾らない人柄の今中さんの話は、聞き手によく「伝わる」ものです。それは今中さんの言葉が人からの聞きかじりや書物からの借り物などではなく、裸一貫からご自身で切り開いてきたその半生からにじみ出たものだからに違いありません。「ぜんぶ独学やった」と今中さん。「今の自分があるのは台湾の陳社長やご縁をいただいた人たち、そして弊社社員のおかげ」と語ります。

さて今回の訪中団では、今中さんの手配により数多くの企業を視察しました。しかし当初、その行程に肝心の今中さんの工場が入っていませんでした。「私たちはこれをメインに考えているんですよ」と今中さんを口説き、タイトな日程をやりくりしてようやく見学が実現しました。「傘屋なんて見てもしょうがない」と自社の工場視察をルートから外していた今中さん。苦勞して育て上げた廈門工場。その現地に我々同友会の仲間が来ているのだから、普通はみんなに見てもらいたくないはず。そのデッカイ体にとことん謙虚な心を宿したお人なんだと感動しました。

今中さん、社員の皆さん、本当にいいものを見せていただきました。ありがとうございました!

（まとめ 坂元鋼材株式会社 坂元 正三）

